

立会川のあらまし

立会川は東京都目黒区にある碑文谷池と清水池に端を発する。延長は 7.4 km。目黒区、品川区の市街地を流れ勝島運河に注ぐ。高度経済成長期、急激な宅地化の中で川は汚れ、1967 年から 1972 年にかけてほとんどの区間が暗渠化され下水道幹線となった。そして下流の 750m だけが開渠区間として残る現在の姿になった。

きれいにしよう！立会川！

「開渠区間の臭気が課題です。その対策が JR 総武線東京駅周辺のトンネルに湧出する地下水を導水し、立会川に放流する事業です」こう話すのは品川区の和田淳・河川下水道課長だ。「2002 年に放流がスタートし一定の臭気抑制はできたのですが、完全には収まりません。そこで、導水に加え高濃度酸素溶解水を供給することにしました」と説明するのは須寄雄次・河川下水道課水辺の係長。地域の人々も川の美化に取り組む。「開渠区間周辺では町会、商店街の方々が中心となり『立会川周辺うるおいプロジェクト事務局』を組織し取り組んでいます。毎年 7 月 7 日の川の日には関係行政機関とも連携し、『立会川環境美化運動』を実施、関係者が川の周辺地域で清掃活動を行っています」と須寄さんは続ける。

下水道と河川の連携で水害対策

1999 年夏には集中豪雨により都内各所で浸水被害が発生、立会川周辺でも 1,000 棟を超える床上浸水が出た。東京都下水道局の中井宏・計画調整部緊急重点雨水対策事業担当課長を訪ねた。「下水道と河川が連携し取り組んでいます。下水道では『クイックプラン』を策定し、第二立会川幹線建設では完成した部分を暫定的に雨水貯留管として活用する『できるところから浸水対策を進める』という姿勢で取り組みました。ところで、立会川直下に建設される雨水放流管工事では、河口付近の既設防潮堤の基礎を避けるため 2 本の管路をねじった形で敷設する H&V シールド工法が採用されました。世界でも類のない難工事です」。

立会川界隈を歩く

大井町駅近くに「立会道路」という看板が立つ。この道路の下が立会川だ。水が見える区間に向かって歩くことにした。やがて開渠区間。車が行き交う第一京浜、京急線立会川駅を過ぎると潮の香りが漂う勝島運河、河口である。目の前には浸水対策の工事現場。変わらない日常風景は、多様な連携が重なり合いで支えられている。穏やかな水面は初夏の青空を映していた。



写真左から、川沿いに掲げられた美化の取り組みを紹介する看板、立会川駅付近の流れ、河口の勝島運河